

## 第2節 地域間の結びつきの分析

地域の人々の生活圏や企業等の事業活動は、交通ネットワークの整備や社会経済活動の高度化・多様化に伴い、様々な面において広域化が進んでいます。

ここでは、県内各地域における主要都市を中心とした、通勤、通学、買物などの目的別の人の移動状況を明らかにすることで、市町村域を越えた地域間の結びつきの状況を整理・分析していきます。

### <地域間の結びつきの状況の分析手法>

分析手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内の主要都市を抽出し、通勤、通学、買物などの目的別に、主要都市を中心とする人の移動を定量的に整理することで、当該目的における地域間の結びつきを分析。</li> </ul>																																						
主要都市の抽出の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口10万人以上の市（2014年10月1日現在）。</li> <li>旧14広域行政圏単位で10万人以上の市がない場合は、当該広域行政圏で最も人口が多い市（原則、平成の合併前の2000年10月1日現在の市町村区分で整理）。</li> <li>□は主要都市の該当市（18市）。</li> </ul>																																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地区</th> <th>旧広域行政圏</th> <th>構成市町村</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名古屋</td> <td>名古屋</td> <td>□名古屋市</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">尾張北東部</td> <td>尾張北部</td> <td>□春日井市、犬山市、江南市、□小牧市、岩倉市、大口町、扶桑町</td> </tr> <tr> <td>尾張東部</td> <td>□瀬戸市、尾張旭市、豊明市、日進市、長久手市、東郷町</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">尾張中西部・海部</td> <td>海部津島</td> <td>□津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村</td> </tr> <tr> <td>尾張西部</td> <td>□一宮市、□稲沢市</td> </tr> <tr> <td>尾張中部</td> <td>清須市、□北名古屋市、豊山町</td> </tr> <tr> <td>知多</td> <td>知多</td> <td>□半田市、常滑市、□東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">西三河</td> <td>豊田加茂</td> <td>□豊田市、みよし市</td> </tr> <tr> <td>岡崎額田</td> <td>□岡崎市、幸田町</td> </tr> <tr> <td>衣浦東部</td> <td>碧南市、□刈谷市、□安城市、知立市、高浜市</td> </tr> <tr> <td>西尾幡豆</td> <td>□西尾市</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">東三河</td> <td>新城南北設楽</td> <td>□新城市、設楽町、東栄町、豊根村</td> </tr> <tr> <td>宝飯</td> <td>□豊川市、蒲郡市</td> </tr> <tr> <td>豊橋渥美</td> <td>□豊橋市、田原市</td> </tr> </tbody> </table>	地区	旧広域行政圏	構成市町村	名古屋	名古屋	□名古屋市	尾張北東部	尾張北部	□春日井市、犬山市、江南市、□小牧市、岩倉市、大口町、扶桑町	尾張東部	□瀬戸市、尾張旭市、豊明市、日進市、長久手市、東郷町	尾張中西部・海部	海部津島	□津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村	尾張西部	□一宮市、□稲沢市	尾張中部	清須市、□北名古屋市、豊山町	知多	知多	□半田市、常滑市、□東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町	西三河	豊田加茂	□豊田市、みよし市	岡崎額田	□岡崎市、幸田町	衣浦東部	碧南市、□刈谷市、□安城市、知立市、高浜市	西尾幡豆	□西尾市	東三河	新城南北設楽	□新城市、設楽町、東栄町、豊根村	宝飯	□豊川市、蒲郡市	豊橋渥美	□豊橋市、田原市	
地区	旧広域行政圏	構成市町村																																					
名古屋	名古屋	□名古屋市																																					
尾張北東部	尾張北部	□春日井市、犬山市、江南市、□小牧市、岩倉市、大口町、扶桑町																																					
	尾張東部	□瀬戸市、尾張旭市、豊明市、日進市、長久手市、東郷町																																					
尾張中西部・海部	海部津島	□津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村																																					
	尾張西部	□一宮市、□稲沢市																																					
	尾張中部	清須市、□北名古屋市、豊山町																																					
知多	知多	□半田市、常滑市、□東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町																																					
西三河	豊田加茂	□豊田市、みよし市																																					
	岡崎額田	□岡崎市、幸田町																																					
	衣浦東部	碧南市、□刈谷市、□安城市、知立市、高浜市																																					
	西尾幡豆	□西尾市																																					
東三河	新城南北設楽	□新城市、設楽町、東栄町、豊根村																																					
	宝飯	□豊川市、蒲郡市																																					
	豊橋渥美	□豊橋市、田原市																																					

## 1 通勤圏

国勢調査により、主要都市への通勤率が5%以上となる市町村を通勤圏として整理すると図表1のとおりとなります。

2010年を2000年と比較すると、圏域に含まれる市町村数が増加したのは稲沢市、北名古屋市、豊田市、岡崎市の4市となっています。一方、東海市では、圏域に含まれる市町村数が減少しています。

最も大きな通勤圏は、名古屋市を中心とする尾張全域（南知多町を除く）から西三河の5市に広がる圏域であり、名古屋市への通勤率が20%以上の市町村数が17市町であるなど、高い求心力を誇っています。

また、豊田市を中心とする通勤圏は西三河から尾張北東部に広がっており、2000年の5市町から2010年には8市町へ拡大するとともに、圏域に含まれる全ての市町村からの通勤率が高まっているなど、求心力を高めています。

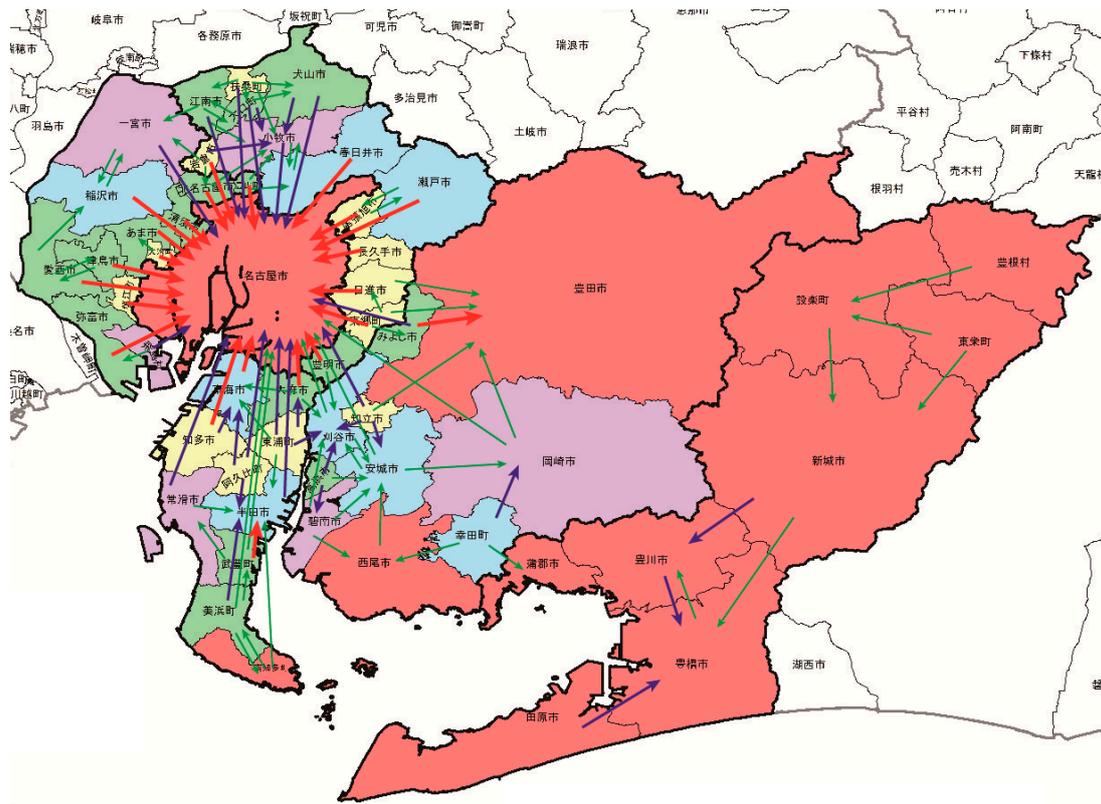
そのほか、刈谷市を中心とする通勤圏は尾張北東部と知多の3市町が含まれ、小牧市を中心とする通勤圏は尾張中西部・海部の2市町が含まれるなど、地区をまたがる圏域が形成されています。

図表1 主要都市への5%通勤圏の状況

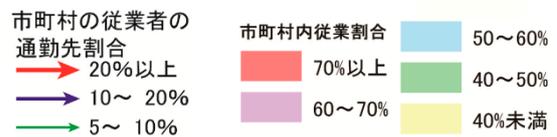
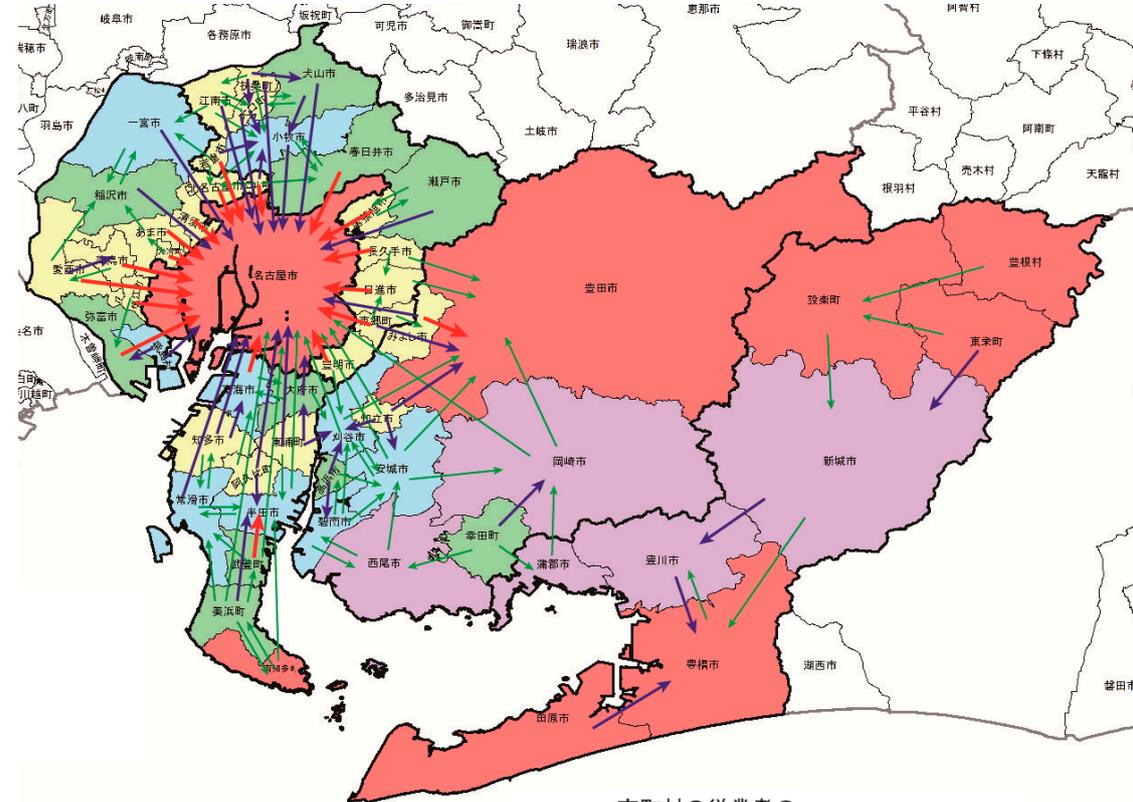
地区	主要都市	主要都市の圏域に含まれる市町村（2010年）	2000年との比較	
			圏域に加わった市町村	圏域から外れた市町村
名古屋	名古屋市	<u>尾張地域全市町村（南知多町を除く）、みよし市、岡崎市、刈谷市、安城市、知立市</u>	—	—
尾張北東部	春日井市	小牧市、 <u>豊山町</u>	—	—
	小牧市	春日井市、犬山市、江南市、岩倉市、大口町、扶桑町、 <u>北名古屋市、豊山町</u>	—	—
	瀬戸市	尾張旭市	—	—
尾張中西部・海部	津島市	愛西市	—	—
	一宮市	稲沢市、 <u>江南市、岩倉市</u>	—	—
	稲沢市	一宮市、愛西市、あま市	あま市	—
	北名古屋市	豊山町、 <u>岩倉市</u>	豊山町	—
知多	半田市	常滑市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町	—	—
	東海市	大府市、知多市、阿久比町	—	東浦町
西三河	豊田市	みよし市、岡崎市、刈谷市、安城市、知立市、 <u>日進市、長久手市、東郷町</u>	刈谷市 安城市 長久手市	—
	岡崎市	幸田町、安城市、 <u>蒲郡市</u>	蒲郡市	—
	刈谷市	碧南市、安城市、知立市、高浜市、 <u>豊明市、大府市、東浦町</u>	—	—
	安城市	碧南市、刈谷市、知立市、高浜市、西尾市	—	—
	西尾市	幸田町、碧南市	—	—
東三河	新城市	設楽町、東栄町	—	—
	豊川市	新城市、豊橋市	—	—
	豊橋市	田原市、新城市、豊川市	—	—

※斜体・下線の市町村は、主要都市の地区外の市町村

<2000年>



<2010年>



出典：総務省「国勢調査」（2000年、2010年）から愛知県政策企画局作成

## 2 通学圏

国勢調査により、主要都市への通学率が5%以上となる市町村を通学圏として整理すると図表2のとおりとなります。

2010年を2000年と比較すると、圏域に含まれる市町村数が増加したのは名古屋市、春日井市、小牧市、津島市、半田市、岡崎市、豊橋市の7市となっています。一方、圏域に含まれる市町村数が減少したのは稲沢市、豊田市、刈谷市、豊川市の4市となっています。

最も大きな通学圏は、名古屋市を中心とする県内全域（新城市、設楽町、東栄町、田原市を除く）に広がる圏域となっています。名古屋市への通学率が20%以上の市町村数は34市町村であり、また、2000年から2010年にかけて、名古屋市への通学率が高まっている市町村数が29市町村となるなど、求心力を高めています。

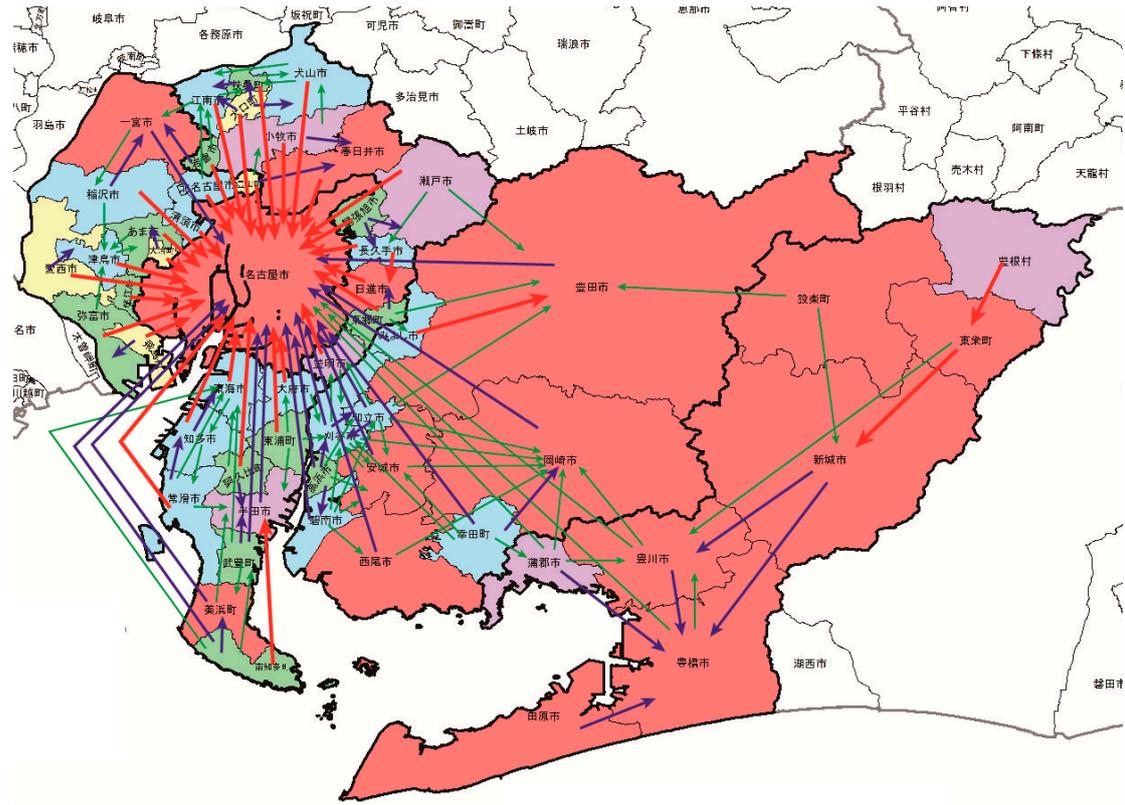
また、刈谷市を中心とする通学圏は尾張北東部と知多の3市町が含まれ、一宮市を中心とする通学圏は尾張北東部の2市が含まれるなど、地区をまたがる圏域が形成されています。

図表2 主要都市への5%通学圏の状況（2010年）

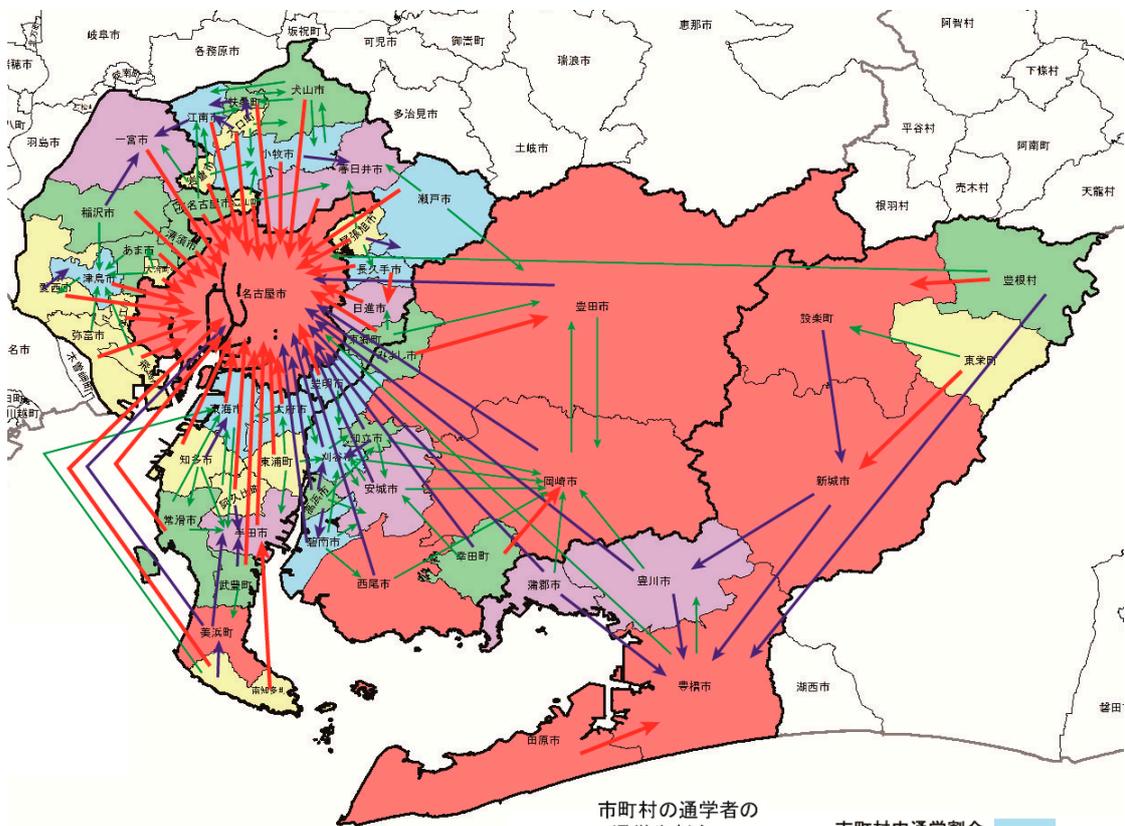
地区	主要都市	主要都市の圏域に含まれる市町村（2010年）	2000年との比較	
			圏域に加わった市町村	圏域から外れた市町村
名古屋	名古屋市	<u>全市町村（新城市、設楽町、東栄町、田原市を除く）</u>	豊根村	—
尾張北東部	春日井市	小牧市、瀬戸市、尾張旭市、 <u>豊山町</u>	瀬戸市 尾張旭市	—
	小牧市	犬山市、岩倉市、大口町、 <u>豊山町</u>	犬山市 岩倉市 大口町	—
	瀬戸市	尾張旭市	—	—
尾張中西部・海部	津島市	愛西市、弥富市、あま市、大治町、飛島村、稲沢市	大治町 飛島村	—
	一宮市	稲沢市、 <u>江南市</u> 、 <u>岩倉市</u>	—	—
	稲沢市	—	—	一宮市
	北名古屋市	—	—	—
知多	半田市	常滑市、東海市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町	東海市 知多市	—
	東海市	常滑市、大府市、知多市、阿久比町、南知多町	大府市	武豊町
西三河	豊田市	みよし市、岡崎市、 <u>瀬戸市</u> 、 <u>東郷町</u>	岡崎市	知立市 設楽町
	岡崎市	幸田町、豊田市、刈谷市、安城市、知立市、西尾市、 <u>豊川市</u> 、 <u>蒲郡市</u>	豊田市	—
	刈谷市	碧南市、安城市、知立市、高浜市、 <u>豊明市</u> 、 <u>大府市</u> 、 <u>東浦町</u>	—	幸田町
	安城市	碧南市、刈谷市、知立市、高浜市、幸田町	—	—
	西尾市	碧南市	—	—
東三河	新城市	設楽町、東栄町	—	—
	豊川市	新城市、豊橋市	—	東栄町 蒲郡市
	豊橋市	田原市、新城市、豊根村、豊川市、蒲郡市	豊根村	—

※斜体・下線の市町村は、主要都市の地区外の市町村

<2000年>



<2010年>



市町村の通学者の  
通学先割合

- 20%以上
- 10~ 20%
- 5~ 10%

市町村内通学割合

	30~40%
	50%以上
	20~30%
	40~50%
	20%未満

出典：総務省「国勢調査」（2000年、2010年）から愛知県政策企画局作成

### 3 商圈

本県の消費者購買動向調査により、主要都市への買回品の購買率が5%以上となる市町村を商圈として整理すると図表3のとおりとなります。

尾張部について2010年を2000年と、三河部について2009年を1999年と比較すると、圏域に含まれる市町村数が増加したのは名古屋市、小牧市、瀬戸市、津島市、半田市、岡崎市、安城市の7市となっています。一方、圏域に含まれる市町村数が減少したのは春日井市、北名古屋市、東海市、豊田市、刈谷市、西尾市、豊橋市の7市となっています。

最も大きな商圈は、名古屋市を中心とする商圈であり、尾張全域（一宮市を除く）から、西三河の5市、更には東三河の設楽町にまで広がっています。

また、小牧市を中心とする商圈は尾張中西部・海部の2市町が含まれ、一宮市を中心とする商圈は、尾張北東部の2市が含まれるなど、地区をまたがる圏域が形成されています。

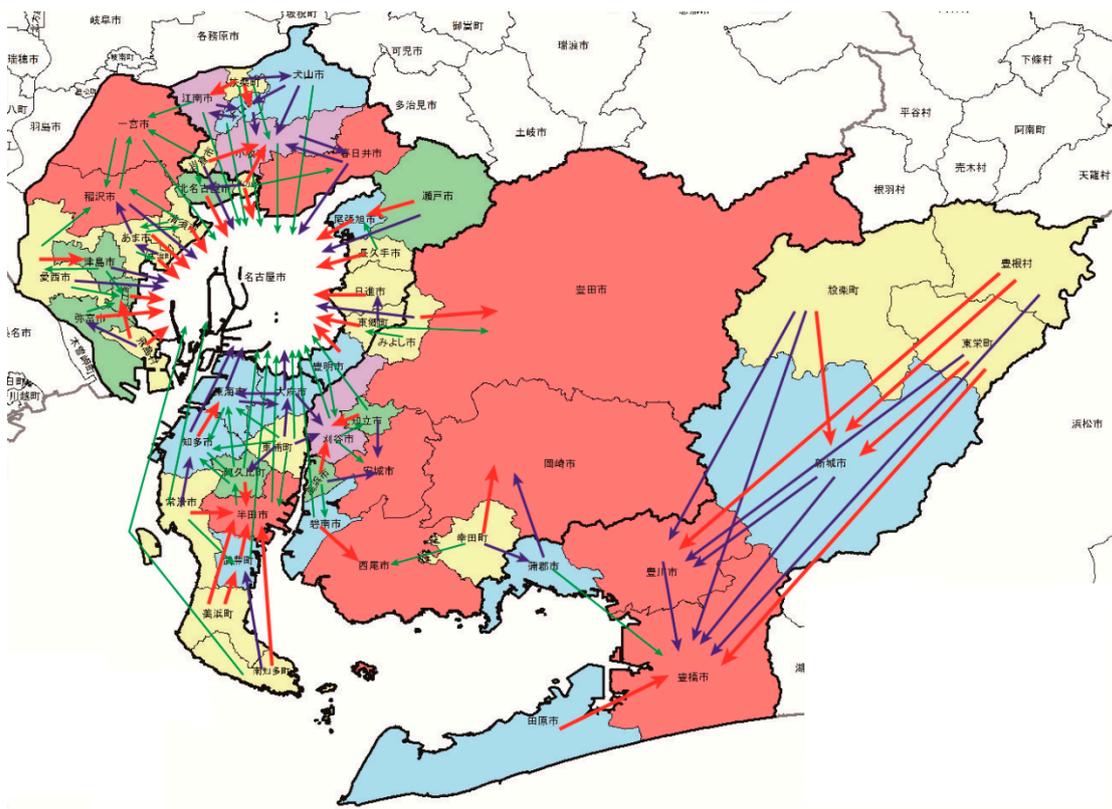
図表3 主要都市への買回品の5%圏域の状況

地区	主要都市	主要都市の圏域に含まれる市町村 (尾張部2010年、三河部2009年)	尾張部2000年、三河部1999年との比較	
			圏域に加わった市町村	圏域から外れた市町村
名古屋	名古屋市	<u>尾張地域全市町村（一宮市を除く）、みよし市、刈谷市、安城市、知立市、高浜市、設楽町</u>	美浜町 安城市 高浜市 設楽町	一宮市 碧南市
尾張北東部	春日井市	小牧市	—	豊山町
	小牧市	春日井市、犬山市、岩倉市、大口町、扶桑町、 <u>北名古屋市、豊山町</u>	北名古屋市	
	瀬戸市	尾張旭市、長久手市	尾張旭市 長久手市	—
尾張中西部・海部	津島市	愛西市、弥富市、あま市、蟹江町	弥富市 あま市 蟹江町	—
	一宮市	稲沢市、 <u>江南市、岩倉市</u>		—
	稲沢市	一宮市、愛西市、あま市、清須市		—
	北名古屋市	—	—	豊山町 岩倉市
知多	半田市	常滑市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町	知多市	—
	東海市	常滑市、知多市	—	大府市 阿久比町 東浦町
西三河	豊田市	みよし市	—	東郷町
	岡崎市	幸田町、豊田市、安城市、西尾市、 <u>蒲郡市</u>	豊田市 安城市 西尾市	—
	刈谷市	知立市、高浜市	—	豊明市 大府市 東浦町
	安城市	碧南市、刈谷市、知立市、高浜市	碧南市	—
	西尾市	碧南市	—	幸田町
東三河	新城市	設楽町、東栄町、(豊根村*)	—	—
	豊川市	新城市、設楽町、東栄町、(豊根村*)	—	—
	豊橋市	田原市、新城市、東栄町、(豊根村*)、豊川市、蒲郡市	—	設楽町

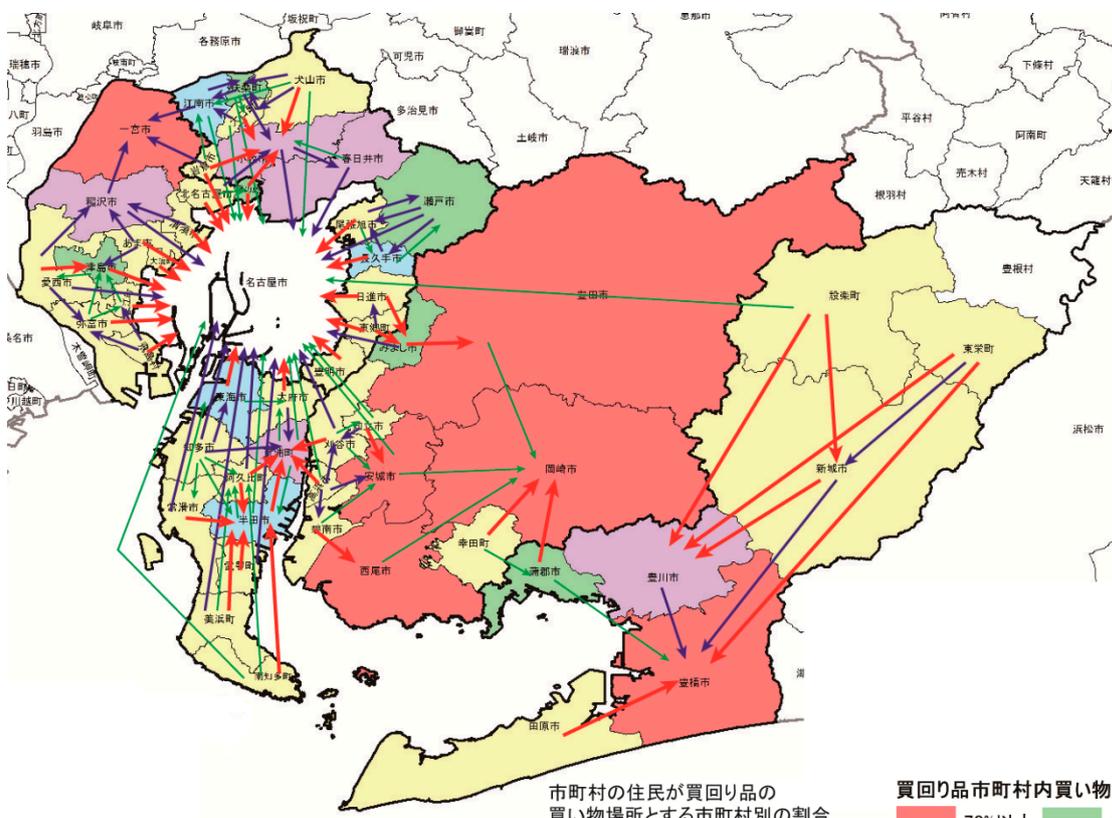
\*豊根村は、2009年のデータがないため、1999年のデータで商圈を記載

※斜体・下線の市町村は、主要都市の地区外の市町村

<尾張部 2000 年、三河部 1999 年>



<尾張部 2010 年、三河部 2009 年>



市町村の住民が買回りの  
買い物場所とする市町村別の割合

- 20%以上
- 10 ~ 20%
- 5 ~ 10%

買回り品市町村内買い物割合

- 70%以上
- 60~70%
- 50~60%
- 40~50%
- 40%未満

出典：愛知県「消費者購買動向調査」(第10回、第11回)から愛知県政策企画局作成

#### 4 業務目的移動の圏域

中京都市圏パーソントリップ調査により、主要都市への業務目的（打合せや販売、配達など）移動の移動率（市町村出発総数を100%とした場合の市町村別到着地の割合）が5%以上となる市町村の圏域を整理すると図表4のとおりとなります。

2011年を2001年と比較すると、圏域に含まれる市町村数が増加したのは小牧市、津島市、一宮市、稲沢市、半田市、東海市、安城市、西尾市、豊川市の9市となっています。一方、圏域に含まれる市町村数が減少した市はなく、全体として業務目的移動の圏域は拡大する傾向にあります。

最も大きな圏域は名古屋市を中心とする圏域であり、尾張のほぼ全域から、西三河の7市、更には東三河の2町村にまで広がっています。

また、一宮市を中心とする圏域は2011年に4市町が加わり、尾張北東部の4市町まで広がっています。更に、豊田市を中心とする圏域は尾張北東部の2市町が含まれるなど、地区をまたがる圏域が形成されています。

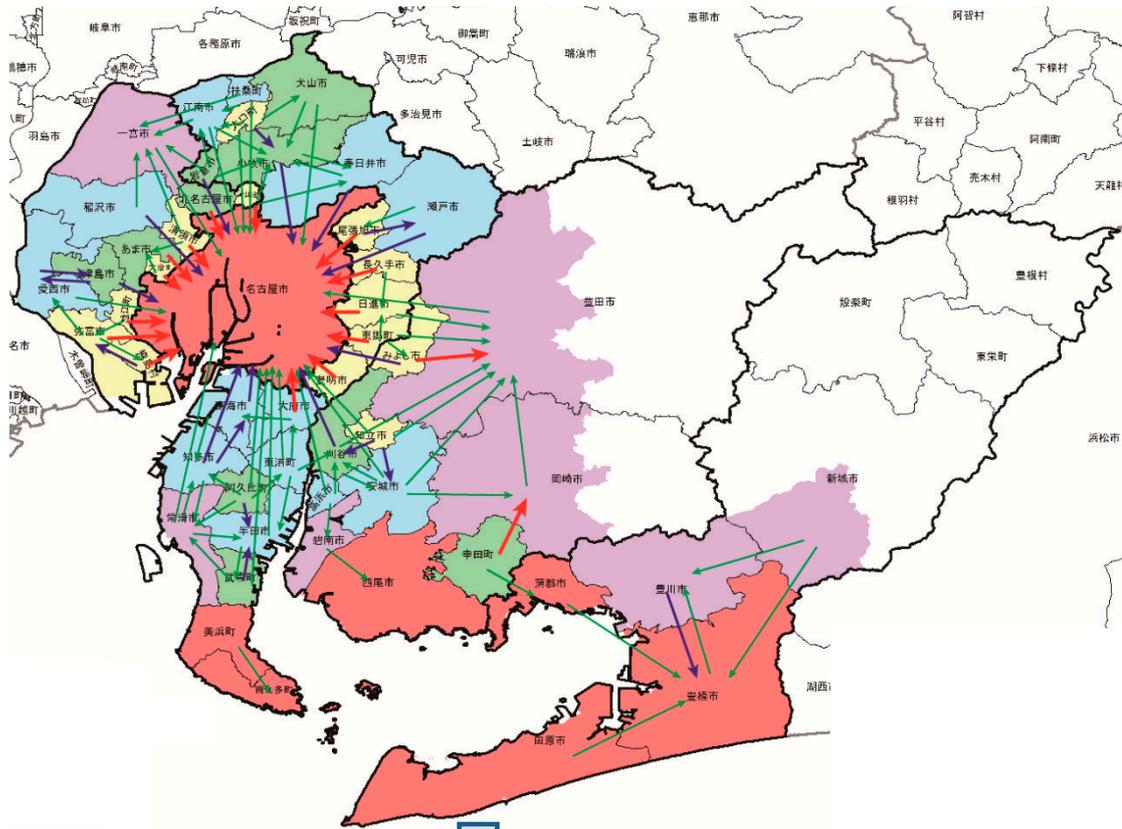
図表4 主要都市への業務目的移動率の5%圏域の状況

地区	主要都市	主要都市の圏域に含まれる市町村（2011年）	2001年との比較	
			圏域に加わった市町村	圏域から外れた市町村
名古屋	名古屋市	<u>尾張地域全市町村（常滑市、南知多町、武豊町を除く）、豊田市、みよし市、岡崎市、碧南市、刈谷市、安城市、知立市、東栄町、豊根村</u>	美浜町 岡崎市 碧南市	常滑市 武豊町 高浜市
尾張北東部	春日井市	小牧市、 <u>豊山町</u>	—	—
	小牧市	春日井市、犬山市、江南市、岩倉市、大口町、 <u>北名古屋市、豊山町</u>	北名古屋市	—
	瀬戸市	尾張旭市	—	—
尾張中西部・海部	津島市	愛西市、あま市	あま市	—
	一宮市	愛西市、北名古屋市、豊山町、 <u>江南市、小牧市、岩倉市、扶桑町</u>	愛西市 北名古屋市 豊山町 小牧市	清須市
	稲沢市	一宮市、津島市、清須市	一宮市 津島市 清須市	—
	北名古屋市	—	—	—
知多	半田市	常滑市、阿久比町、南知多町、美浜町、武豊町	南知多町 美浜町	東浦町
	東海市	大府市、知多市、阿久比町	阿久比町	—
西三河	豊田市	みよし市、岡崎市、幸田町、刈谷市、知立市、 <u>日進市、東郷町</u>	幸田町	安城市
	岡崎市	幸田町、安城市、西尾市	西尾市	知立市
	刈谷市	安城市、知立市、高浜市、 <u>東浦町</u>	—	—
	安城市	碧南市、刈谷市、知立市、岡崎市、西尾市	碧南市 岡崎市 西尾市	—
	西尾市	碧南市、知立市	知立市	—
東三河	新城市	設楽町、東栄町	—	—
	豊川市	蒲郡市、新城市、設楽町、豊橋市	蒲郡市	—
	豊橋市	田原市、新城市、設楽町、豊川市、蒲郡市	—	—

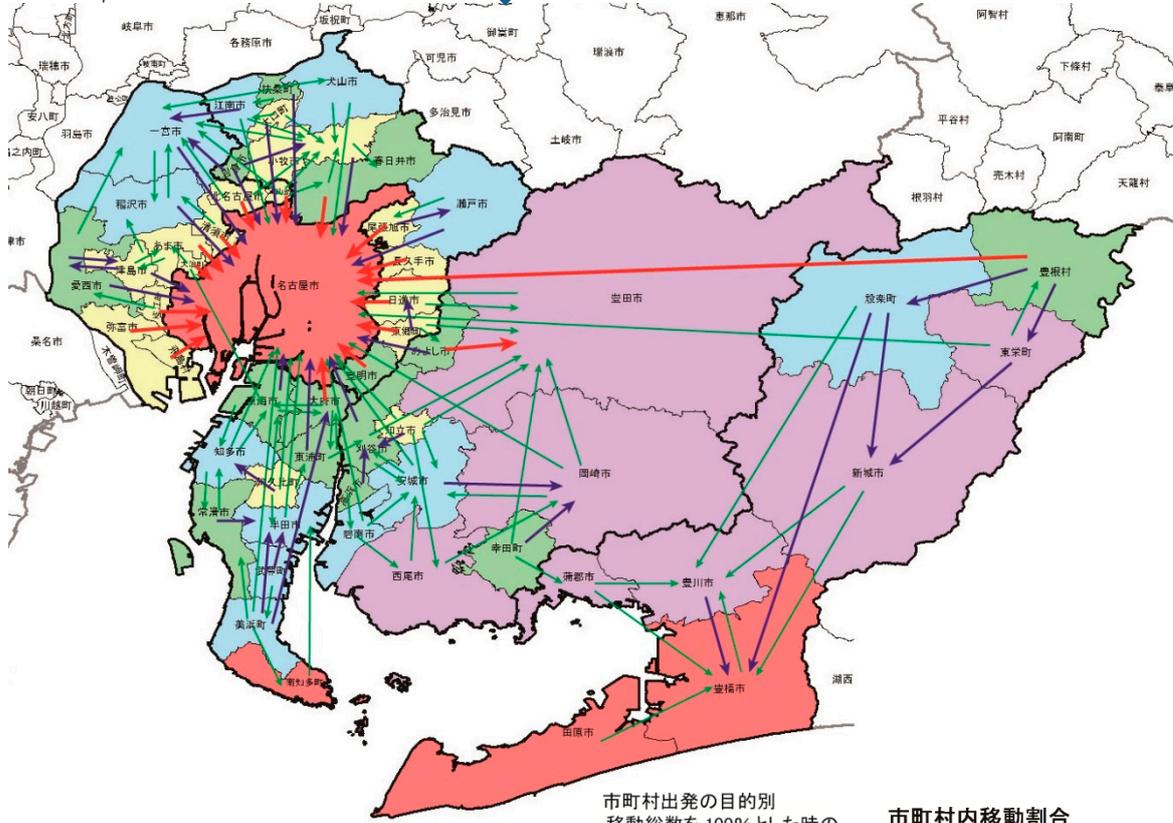
※斜体・下線の市町村は、主要都市の地区外の市町村

※2001年調査では、岡崎市の旧額田町、新城市の旧鳳来町・旧作手村、豊田市の旧豊田市と旧藤岡町以外、設楽町、東栄町、豊根村は調査対象外であり、当該市町村については2001年と2011年とは単純比較ができない点に留意が必要

<2001年>



<2011年>



市町村出発の目的別  
移動総数を100%とした時の  
市町村別到着地の割合

→ 20%以上  
→ 10～20%  
→ 5～10%

市町村内移動割合

70%以上  
60～70%  
50～60%  
40～50%  
40%未満

出典：中京都市圏総合都市交通計画協議会  
「中京都市圏パーソントリップ調査」(第4回、第5回) から  
愛知県政策企画局作成

## 5 自由目的移動の圏域

中京都市圏パーソントリップ調査により、主要都市への自由目的（買物、食事、レクリエーションなど）移動の移動率（市町村出発総数を100%とした場合の市町村別到着地の割合）が5%以上となる市町村の圏域を整理すると図表5のとおりとなります。

2011年を2001年と比較すると、圏域に含まれる市町村数が増加したのは名古屋市、春日井市、津島市、一宮市、刈谷市、安城市の6市となっています。一方、圏域に含まれる市町村数が減少したのは東海市のみであり、全体として自由目的移動の圏域は拡大する傾向にあります。

最も大きな圏域は名古屋市を中心とする圏域であり、2011年に5市町が加わり、尾張地域の22市町村と西三河の2市まで広がっています。

また、豊田市を中心とする圏域では、東三河の2町村が含まれ、刈谷市を中心とする圏域では、知多の2市町が含まれるなど、地区をまたがる圏域が形成されています。

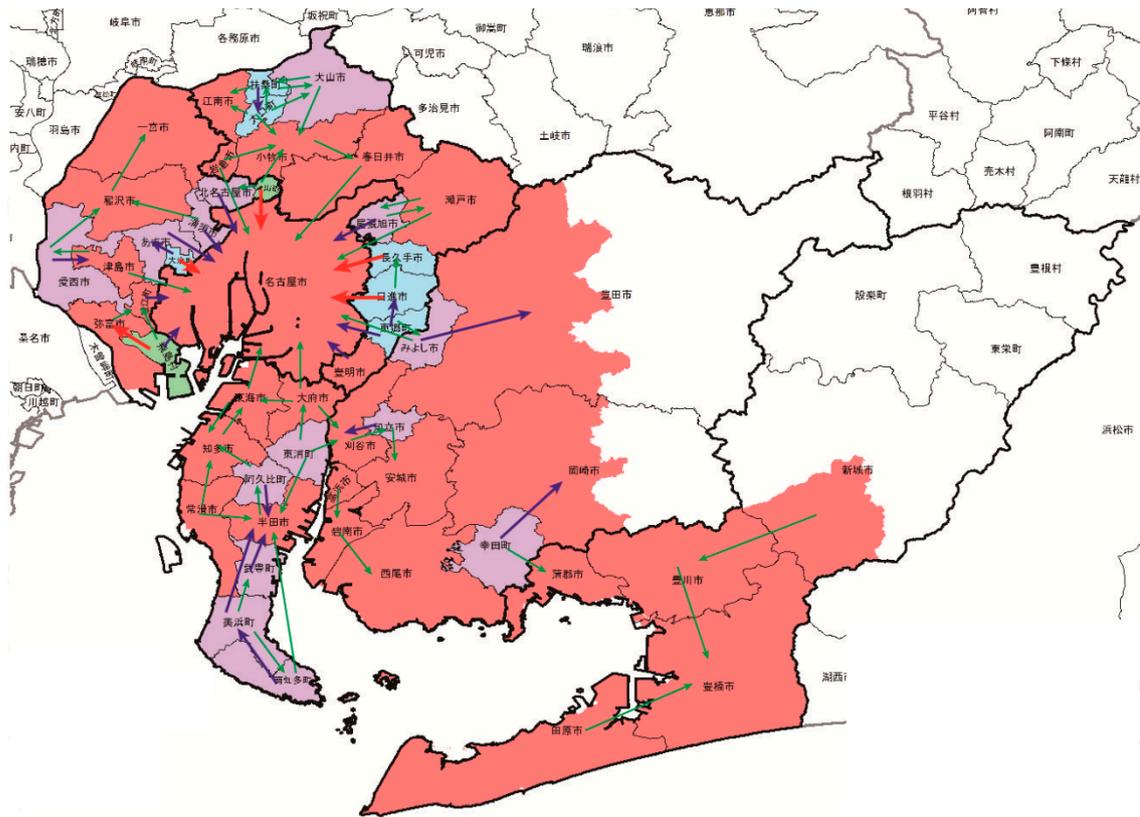
図表5 主要都市への自由目的移動率の5%圏域の状況

地区	主要都市	主要都市の圏域に含まれる市町村（2011年）	2001年との比較	
			圏域に加わった市町村	圏域から外れた市町村
名古屋	名古屋市	<u>春日井市</u> 、 <u>岩倉市</u> 、 <u>瀬戸市</u> 、 <u>尾張旭市</u> 、 <u>豊明市</u> 、 <u>日進市</u> 、 <u>長久手市</u> 、 <u>東郷町</u> 、 <u>津島市</u> 、 <u>愛西市</u> 、 <u>弥富市</u> 、 <u>あま市</u> 、 <u>大治町</u> 、 <u>蟹江町</u> 、 <u>飛島村</u> 、 <u>清須市</u> 、 <u>北名古屋市</u> 、 <u>豊山町</u> 、 <u>東海市</u> 、 <u>大府市</u> 、 <u>東浦町</u> 、 <u>南知多町</u> 、 <u>みよし市</u> 、 <u>刈谷市</u>	愛西市 弥富市 東浦町 南知多町 刈谷市	—
尾張 北東部	春日井市	小牧市、 <u>豊山町</u>	豊山町	—
	小牧市	犬山市、岩倉市、大口町、 <u>豊山町</u>	—	—
	瀬戸市	尾張旭市	—	—
尾張 中西部・ 海部	津島市	愛西市、あま市、飛島村	あま市 飛島村	—
	一宮市	稲沢市、 <u>岩倉市</u>	岩倉市	—
	稲沢市	愛西市、清須市	—	—
	北名古屋市	豊山町	—	—
知多	半田市	常滑市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町	—	—
	東海市	知多市	—	大府市
西三河	豊田市	みよし市、 <u>設楽町</u> 、 <u>豊根村</u>	—	—
	岡崎市	幸田町	—	—
	刈谷市	知立市、高浜市、 <u>大府市</u> 、 <u>東浦町</u>	高浜市	—
	安城市	知立市、高浜市	高浜市	—
	西尾市	碧南市	—	—
東三河	新城市	設楽町、東栄町、豊根村	—	—
	豊川市	新城市、豊根村	—	—
	豊橋市	田原市、豊川市	—	—

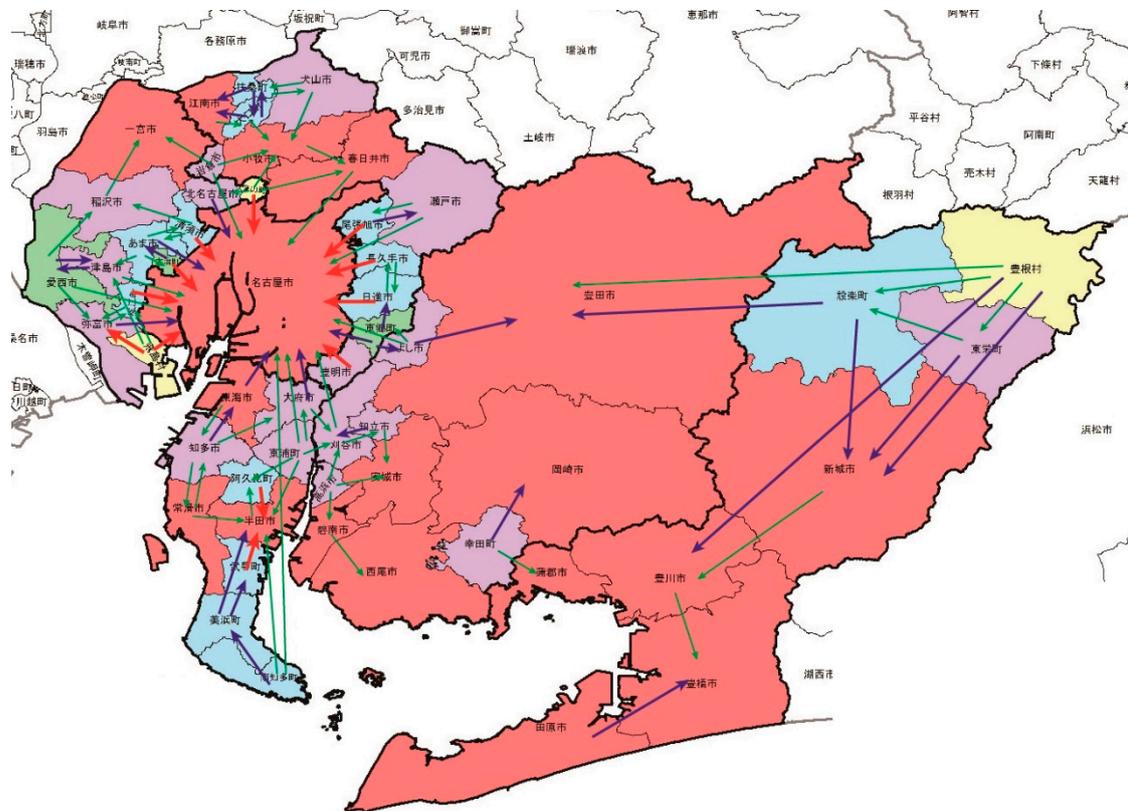
※斜体・下線の市町村は、主要都市の地区外の市町村

※2001年調査では、岡崎市の旧額田町、新城市の旧鳳来町・旧作手村、豊田市の旧豊田市と旧藤岡町以外、設楽町、東栄町、豊根村は調査対象外であり、当該市町村については2001年と2011年とは単純比較ができない点に留意が必要

<2001年>



<2011年>



出典：中京都市圏総合都市交通計画協議会  
「中京都市圏パーソントリップ調査」(第4回、第5回) から  
愛知県政策企画局作成

市町村出発の目的別  
移動総数を100%とした時の  
市町村別到着地の割合

- 20%以上
- 10 ~ 20%
- 5 ~ 10%

市町村内移動割合

- 70%以上
- 60~70%
- 50~60%
- 40~50%
- 40%未満

### 6 娯楽・文化目的移動の圏域

2011年の中京都市圏パーソントリップ調査の自由目的移動のうち、娯楽・文化目的の移動について、主要都市への移動率（市町村出発総数を100%とした場合の市町村別到着地の割合）が5%以上となる市町村の圏域を整理すると図表6のとおりとなります。

最も大きな圏域は名古屋市を中心とする圏域であり、尾張のほぼ全域から、西三河の6市まで広がっているほか、一宮市や豊田市を中心とする圏域では、同一地区外の2市町が含まれるなど、地区をまたがる圏域が形成されています。

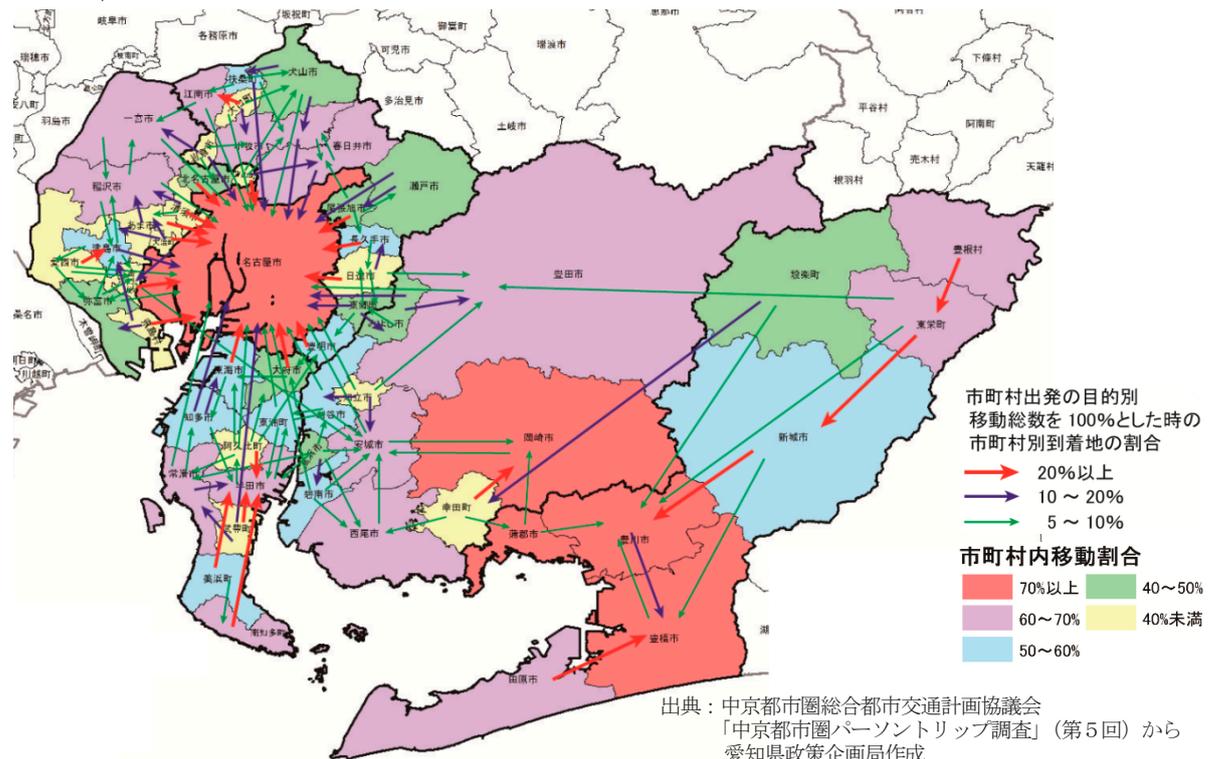
図表6 主要都市への娯楽・文化目的移動率の5%圏域の状況

地区	主要都市	主要都市の圏域に含まれる市町村 (2011年)
名古屋	名古屋市	尾張地域全市町村 (半田市、南知多町、美浜町を除く)、豊田市、みよし市、碧南市、刈谷市、安城市、知立市
尾張北東部	春日井市	小牧市、尾張旭市、豊山町
	小牧市	春日井市、犬山市、岩倉市、大口町、扶桑町、豊山町
	瀬戸市	尾張旭市
尾張中西部・海部	津島市	愛西市、弥富市、大治町、飛島村、稲沢市
	一宮市	稲沢市、江南市、岩倉市
	稲沢市	一宮市、津島市、あま市、清須市
	北名古屋市	岩倉市
知多	半田市	常滑市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町、高浜市
	東海市	大府市、知多市、阿久比町
西三河	豊田市	みよし市、知立市、日進市、東栄町
	岡崎市	幸田町、安城市、蒲郡市
	刈谷市	知立市、高浜市、東浦町
	安城市	碧南市、刈谷市、知立市、高浜市、岡崎市、西尾市、蟹江町
	西尾市	幸田町、碧南市、高浜市
東三河	新城市	東栄町
	豊川市	蒲郡市、新城市、設楽町、東栄町、豊橋市
	豊橋市	田原市、新城市、豊川市

※斜体・下線の市町村は、主要都市の地区外の市町村

※2001年の調査では、娯楽・文化目的の移動データは未公表

<2011年>



### 7 通院、デイケア・デイサービス目的移動の圏域

2011年の中京都市圏パーソントリップ調査の自由目的移動のうち、通院、デイケア・デイサービス目的の移動について、主要都市への移動率（市町村出発総数を100%とした場合の市町村別到着地の割合）が5%以上となる市町村の圏域を整理すると図表7のとおりとなります。

最も大きな圏域は名古屋市を中心とする圏域であり、尾張のほぼ全域と西三河のみよし市に広がっているほか、刈谷市を中心とする圏域は知多の2市町が含まれるなど、地区をまたがる圏域が形成されています。

図表7 主要都市への通院、デイケア・デイサービス目的移動率の5%圏域の状況

地区	主要都市	主要都市の圏域に含まれる市町村 (2011年)
名古屋	名古屋市	尾張地域全市町村 (犬山市、江南市、岩倉市、大口町、扶桑町、半田市、常滑市、阿久比町、南知多町、美浜町を除く)、 <u>みよし市</u>
尾張北東部	春日井市	小牧市、 <u>豊山町</u>
	小牧市	春日井市、犬山市、岩倉市、 <u>北名古屋市</u>
	瀬戸市	尾張旭市
尾張中西部・海部	津島市	愛西市、あま市
	一宮市	稲沢市、大治町、 <u>岩倉市</u>
	稲沢市	—
知多	北名古屋市	清須市、豊山町
	半田市	知多市、阿久比町、美浜町、武豊町
	東海市	知多市
西三河	豊田市	みよし市、安城市、知立市、 <u>東郷町</u>
	岡崎市	幸田町、西尾市
	刈谷市	知立市、高浜市、 <u>大府市</u> 、 <u>東浦町</u>
	安城市	刈谷市、知立市、高浜市、幸田町、西尾市、 <u>南知多町</u>
	西尾市	—
東三河	新城市	設楽町、東栄町、豊根村
	豊川市	新城市、東栄町
	豊橋市	田原市、新城市、豊川市

※斜体・下線の市町村は、主要都市の地区外の市町村

※2001年の調査では、通院、デイケア・デイサービス目的の移動データは未公表

<2011年>

